編集者への手紙 *Letters to the Editor*

スポーツ鍼灸委員会の取り組み3 全日本鍼灸学会学術大会シンポジウムについて

吉田 成仁¹⁾、池宗佐知子¹⁾、泉 重樹²⁾、金子 泰久³⁾、
近藤 宏⁴⁾、櫻庭 陽⁴⁾、藤本 英樹⁵⁾、吉田 行宏⁶⁾、古屋 英治³⁾

- 1) 帝京平成大学ヒューマンケア学部
- 2) 法政大学スポーツ健康学部
- 3) 呉竹学園東洋医学臨床研究所
- 4) 筑波技術大学保健科学部
- 5) 東京有明医療大学保健医療学部
- 6) 明治国際医療大学鍼灸学部

Introducing the Efforts of Acupuncture and Moxibustion Committee of Sports Part.3; Symposium of the 64th Annual Congress of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion in Fukushima.

YOSHIDA Naruto¹⁾, IKEMUNE Sachiko¹⁾, IZUMI Shigeki²⁾, KANEKO Yasuhisa³⁾,
KONDO Hiroshi⁴⁾, SAKURABA Hinata⁴⁾, FUJIMOTO Hideki⁵⁾,
YOSHIDA Yukihiko⁶⁾, FURUYA Eiji³⁾

キーワード：オリンピック・パラリンピック、サッカー、アスレティックトレーナー

Key words: Olympic and Paralympic, Soccer, Athletic Trainer

I. はじめに

平成27年5月22日から24日に第64回全日本鍼灸学会学術大会ふくしま大会¹⁾がピックパレットふくしまにて開催されます。福島大会では【タイトル】(仮)を「東京オリンピック・パラリンピックに向けた鍼灸再考～サッカー界における鍼灸の可能性を探る!」としたシンポジウムを開催する予定です。サッカーに焦点を当て、近年急速に認

識が高まったブラインドサッカーを含めて、医師、選手、そして選手をケアする鍼灸師の立場から、サッカーの現場で要求されること、鍼灸師の持っている可能性について再検討することが目的となります。鍼灸師に限らず、社会において活動するためには技量はもとより、他職種間での連携が求められます。サッカー分野において求められる鍼灸師像を追求することで、スポーツ界全体におい

て「求められる存在」となるために、我々が目指すべき方向性について提示できるのではと考えます。今回の大会テーマである「鍼灸医学の復興」とは、埋もれてしまった能力を再発掘し、発展させ、臨床現場で十分に活用することとされています。スポーツ分野においても鍼灸師の能力を再発掘し、活用することで、鍼灸師が様々な部分で「求められる存在」になれると考えます。

また体験特別展示ブースも併せて開催する予定です。これまでの臨床体験コーナーと同様な立ち位置で学会参加者の方々にブラインドサッカーを体験していただく予定です。昨年11月に世界選手権が代々木で開催され、メディアにも多く取り上げられたブラインドサッカーについても知っていただく機会になると思います。

II. スポーツ鍼灸の果たす役割「治療から予防へ」

第63回愛媛大会にて「スポーツ鍼灸！東京オリンピック・パラリンピックに向けて我々は何をすべきか」～今までの総括、これからの目標～というタイトルでワークショップを開催しました。このワークショップを経て、「スポーツ鍼灸」の大きな役割として、これまではスポーツ傷害の治療が大きかったと考えられます。研究の対象となるものもスポーツ傷害に対する鍼灸の効果を検討したものが中心でした。そして、今後スポーツ分野において鍼灸がさらに導入されるために解決が必要であると考えられる課題を64巻3号「編集者への手紙」²⁾にて掲載していただきました。「①スポーツ分野における鍼灸の効果や有用性に関する研究の推進、②スポーツ現場における鍼灸の臨床症例の集積、③スポーツを専門とする鍼灸師の育成、④スポーツ選手をサポートする関係職種との連携の強化、⑤上記4つの取り組みについて国内外に積極的に情報発信すること」。この中で、③スポーツを専門とする鍼灸師を育成していくためには、「スポーツ傷害の治療」だけでなく、より重要と考えられ始めている「スポーツ傷害の予防」のためのスキルを身につけていく必要があると思われます。

予防のためには、痛みが出現する前の選手の心身の情報をメディカルチェックなどにより、的確

に把握しておく必要があります。これらの情報を的確に把握するためには、いわゆる整形外科的な理学検査のみでは難しいと考えられるため、スポーツ現場で導入されているスポーツパフォーマンスの評価方法³⁾なども取り入れていく必要があると思われます。Grayら⁴⁾によると、不適切な関節アライメント、筋の協調、姿勢を代償的に使うという動作などのバイオメカニクスの不良によって慢性的な痛みにつながる微細損傷が起きるとされており、さらにバイオメカニクスの不良は、通常、素人には気付くことができないとされています。しかし、我々鍼灸師がスポーツを専門として関わっていく時には、スポーツ傷害の治療だけでなく、スポーツ傷害を予防するために、上記のような素人には気付くことができないバイオメカニクスの不良を発見し、痛みにつながる微細損傷が起きる前に改善を図ることができるスキルが必要となってきます。そのためには、選手の発揮するパフォーマンスを、体の動きを、アライメントをしっかりと把握する能力について鍼灸治療と同様に、日々の研鑽により身につけていく必要があると考えます。

文 献

- 1) 「第64回（公社）全日本鍼灸学会学術大会ふくしま大会プロモーションビデオ (<https://www.youtube.com/watch?v=wbNy34O67Fk>)」 アクセス日2015年1月13日
- 2) スポーツ鍼灸委員会 近藤宏, 他: スポーツ鍼灸委員会の取り組み 東京オリンピック・パラリンピックを通過点にして 全日鍼灸会誌 64(3), 171-3, 2014
- 3) Bill Foran (原著), 中村千秋 (翻訳) 他: スポーツコンディショニングパフォーマンスを高めるために. 大修館書店, 東京, 第1版, 2010
- 4) Gray Cook (著), 石塚利光 (監修) 他: アスレティックボディ・イン・バランス. ブックハウス・エイチディ, 東京, 第1版, 2011